

協定企業名	高知工科大学／高知工科大学後援会
交流行事名	高知工科大学－物部川共生の森 2018
開催日	平成30年11月4日
開催場所	香美市
主な参加者・人数	高知工科大学(14名)、物部森林組合(5名)、土佐塩の道保存会(3名)、香美市(3名)、高知県(1名) 計26名
交流活動の概要	塩の道ウォーキング、間伐体験
当日の様子	   <p>平成30年11月4日(日)、高知工科大学・高知工科大学後援会、物部森林組合、香美市、高知県による「高知工科大学－物部川共生の森 2018」が開催されました！本日の活動内容は塩の道ウォーキングと間伐体験です。</p> <p>ウォーキングのスタート地点である香北町久保川では、土佐塩の道保存会による挨拶と概要説明を聞き、久保川見渡し地蔵→庄谷相の約5.6kmのウォーキングコースをスタートします。</p>       <p>塩の道とは、約400年前に赤岡町でとれた塩を物部の里まで運ぶために人々が行き来していた産業道です。塩以外にもお茶や穀物など様々な物資が運ばれていたようです。その後、時代の流れにより廃道となっていたこの道を、平成14年から住民有志による整備が始まり、その後保存会が発足。地域住民の力によって塩の道が蘇り、今では春の「土佐塩の道30kmうおーきんぐ」、秋の「土佐塩の道トレイルランニングレース」は多くの人々が集まる人気のイベントとなっています。</p> <p>久保川見渡し地蔵をスタートした一行は、田畑の間を抜け、地域の人からの温かい声援を受けながら、ゴールである庄谷相を目指します。途中、ベテランガイドの公文寛伸様からは塩の道の歴史だけではなく、鳥獣被害の現状や間伐の必要性など、実際に山を見ながら説明していただきました。参加者も、午後からの間伐作業の大切さを十分に理解することができたのではないのでしょうか。</p>    <p>お昼にゴールの庄谷相に到着した一行は、用意された塩の道名物「おばやんの竹弁当」で午後からの間伐作業に向けて腹ごしらえ。お弁当を開けると、その見た目の美しさに歓声が上がります。一同、食べるのも忘れて写真撮影。このお弁当、写真を見てももらえれば分かると思いますが、お弁当箱やおにぎり、おかずを包むものまで全て自然のものでできています。土に返らないものは使わないというこだわりに、自然環境を守ることの大切さを改めて実感しました。</p>



午後からは、いよいよ間伐体験です！物部森林組合の職員の方から、間伐作業やチェーンソーの扱い方について指導を受けます。

初めてチェーンソーに触れるという参加者も多く、作業を前にやや緊張しているようにも見えました。



その後、参加者は3グループに分かれ、いよいよチェーンソーを使った間伐作業がスタート。山の中にチェーンソーの音が響きます。初めて使うチェーンソーにどうしても手が入ってしまいますが、そこは物部森林組合の職員の方がうまく参加者をサポートしながら、次々と木が倒れていきます。作業を終えた参加者は、ほっとした表情を見せ、「木が倒れる瞬間が気持ちいい！」といった声もあちらこちらから聞こえました。参加者一人につき一本を倒すということで始めた間伐作業ですが、中には2本目に挑戦した参加者もいて、とても貴重な体験になったようでした。また、作業終了後には、物部森林組合の職員の方が伐採した木を使ってスウェーデントーチなどを作ってくれました。自分たちが倒した木で思わぬお土産ができ、参加者は大喜びで持ち帰っていました。



本日の交流活動は、午前中の塩の道ウォーキングに始まり、午後からの間伐体験と秋の山を満喫した1日となりました。

参加者の皆様、1日どうもお疲れさまでした。また、交流活動をサポートしてくださいました、土佐塩の道保存会、物部森林組合、香美市役所の皆様、どうもありがとうございました。来年もぜひ参加します！

